



# 原田 芳男 議員 … 6 件の一般質問

## 旭ヶ丘公園は町民の憩いの場 フロートレイルは別の場所で

### 町長：来年以降も行う方向で検討する

泊原発は廃炉にすべき

**原田** 東京電力福島第一

原発の損害賠償や除染、廃炉の費用が国の推計でも2倍の22兆円となっている。新電力にも「送電線使用料」の名目で転嫁している。

また、原子力防災計画は絵に描いた餅では。小樽市長も原発廃炉を

表明、町長も廃炉を申し入れるべき。

**町長** 廃炉を進めるには、

原発を持たない新電力に移行した人もこれまで原発の安い電気を使ってきたことを踏まえると廃炉費用を広く分担し、原発のない社会を実現できるような体制を整えるべきと考えている。

また、原子力防災計画については、毎年、防災訓練を実施し、実効性のある計画にしていける。

フロートレイルについて

**原田** フロートレイルの

実証事業を観光協会に委託し、観光協会は

旭ヶ丘公園にコースを造成した。しかし、都市公園条例の原状回復規定も履行されず、ほかのところで出来なかったのかなど疑念が深まっている。事業費や、町民の憩いの場である公園の立ち入り禁止措置、散策路の工作物の破壊など、今後どのようにするのか明らかにするべき。

**町長** フロートレイルについては、

観光協会を受託者として400万円で契約した。観光協会に占用許可を与え、7月21日から8月10日の間コース造成が行われた。9月11日から10月16日の間11回の体験会を開催し、800名の利用があった。実証実験終了後、10月26日に観光協会と町で協議したところ、現状のままではゲレンデの整備に支障が出て通常オープンできないと説明があり、観光協会によって11月9日から11月20日の間に埋め戻し作業を行った。しかし、不十分であることから12月3日に町に

において圧雪車と重機によりスキー場のオープンに支障がないよう措置した。スキー場については、12月25日オープンを目指している。

事業費については海外の専門家の旅費が63万円、現地調査費21万1千円、コース造成費、消耗品5万4千円となっている。散策路は、今回撤去した部分について来年以降フロートレイルと散策路をうまくコンビネーションで使えないかなど対応していきたい。

新町立保育所について

**原田** 新町立保育所は、

3歳未満児のみを受け入れとしているが、住民は5歳までの受け入れをしてほしいと願っている。経費の面でも心配しているが明らかにするべき。

**町長** 町立保育所については、

3歳未満児を主に受け入れ、3歳以上の幼児については認定こども園の私立幼稚園が受け入れることとしてい

る。送迎については、通園バスの利用を園と協議している。保育料については、保育所もこども園も変わらない。給食費については、1号認定が別途、料金がかかる。また、こども園は施設費などが別途かかることもあると思われる。

国民健康保険について

**原田** 国は国民健康保険

の低所得者への対策として一人5000円平均の保険料引き下げ対策として、1700億円を予算化し保険者に交付している。本町はどのように対応しているのか。

また、平成30年から国民健康保険は各都道府県の広域連合方式になるが後志広域連合は解散するのか。

**町長** 保険税の軽減については平成27年度

から1700億円が投入され、低所得者に対する軽減の拡大がある。今までの減免の拡充の

ほかに2割軽減についても対象とされた。

広域連合について、道は財政運営、町村は算定・賦課徴収、後志広域連合は被保険者の資格管理・レセプト管理などを分担する。

後志広域連合は今までも引き続きする。

\*その他に、「新幹線と在来線について」「一般廃棄物の処理について」に関する質問をしました。

フロートレイル  
夏のゲレンデをマウンテンバイクで下ると  
いうスポーツ